

2/22 韓国民主主義の胎動—マウルまちづくり運動

2/22～25 マウル共同体づくり、社会的経済基本法の提案—韓国の新しい市民社会を学ぶ—日本福祉大穂坂先生、朴兪美先生の研究に、北芝と浅香地区の若い人たちと参加させてもらった。

22日はソウルから2時間。洪城郡洪東面の視察。プルム学校という内村鑑三と同じ無教会主義の人たちが作った農業学校。補助金も受けず村人とともに地域教育の拠点としての歴史を刻む。

1990～過度の受験競争に反発したオルタナティブ学校が韓国全土 200 校を超えて作られる。それ以前 1975 日本のお農学校、小谷先生が有機農法を伝え 200 万坪で栽培、米づくりが始まっていた。プルム学校に全国から注目が集まり、今では 1 学年 25 人の募集に 3 倍近い競争。また困難を抱える学生、人生を考える学生をあえて受け入れる。3500 人の村の 20%が I ターン者。

ソウル大学を出て、島根大で博士号をとった具さんは、オーガナイザーとしてこの地域に入り、郡(市に相当)の内部に新たなマウル共同体を作る。会場は忠清南道が設立した中間支援組織、マウル共同体づくりセンターのビル。2016 年発足、法に基づく組織でなく、3 年委託、再入札で民間組織が事業を担う。道(日本の県)に 1 箇所センターがあり、地域起こしのコーディネートを市レベル、村レベルに民間組織を作る。地元、都会から来た若いスタッフが雇用されて活動している。

研究のための研究、学位で値打ちをつける学者が多すぎる、と具さん。大学が現場から離れている事に辛辣な批判。郡と契約して、さまざまな市民活動、農民活動をネットワーク化している。

潰れかけた居酒屋を協同組合化、生協も学校卒業生の訓練を兼ねて経営、年 2500 万円売り上げ。夜は元教員、農場経営者鄭さん、具さんと遅くまで議論しました。



